

# 第5期第4回あま市まちづくり委員会会議録要旨

と き 令和3年3月29日(月)  
午後2時30分～午後4時15分  
ところ あま市役所本庁舎 2階 大ホール

## 1. 出席者等

委員	14名
事務局	5名
市民活動センター	1名
傍聴人	1名

## 2. 議題

「協働のためのルールブック」作成に向けて

### ○委員長

- ・事務局から資料の説明をお願いします。

### ○事務局

(資料1に基づき説明)

- ・前回の書面会議での意見と他市の事例を参考に事務局を作成した。
- ・ルールブックの中身を審議いただき、市に提言していくことで進めていきたい。
- ・全体の構成は4章立てとした。

(参考資料1に基づき説明)

- ・「(1) 概要について」：章ごとの内容を示している。構成について、後ほど意見を頂きたい。各章の中身については、第5回以降の会議でワークショップにより検討していただく予定。
- ・「(2) 解決策に向けた主な意見について」：詳細は参考資料2。
- ・「(3) 「協働のためのルールブック」の作成目的」：協働による事業がより効果的かつ効率的に進むよう、協働の目的や手続きの在り方などの具体的な内容を示す。
- ・「(4) 「協働のためのルールブック」の活用先及び対象者」：設立から概ね5年程度の市民活動団体に配布することを考えている。また、新たに協働を始めようとしている団体などにも配布を考えている。
- ・「(5) 検討事項」：全体構成、表現、項目漏れなどについて意見を頂きたい。

(参考資料2に基づき説明)

- ・前回の書面会議での意見の後に、ルールブック素案に反映させたページ等を明記した。

(参考資料3に基づき説明)

- ・令和3年度は5回の委員会を予定している。

### ○委員長

- ・この素案は何割ぐらいの完成度か。

#### ○事務局

- ・五、六割ぐらいのつもりである。意見を頂き修正していきたいと考えている。

#### ○委員

- ・量が多い気がする。
- ・協働のガイドブックと重複する内容は削ったほうがよい。
- ・文章自体も簡素化したほうがよい。
- ・図や表を使えば、量も減らせるのではないか。
- ・これから始める人にはガイドブックと併せて配布し、ある程度分かった人にはルールブックだけを配布するという方法もある。

#### ○委員長

- ・送付された資料を見て、どう思ったか。

#### ○委員

- ・最初から読んでみたが、正直使えないと思った。ガイドブックには「協働とは何か」や「協働してみよう」が書いてあるので、ルールブックには「そのためにはどうしたらよいか」を書けばよいと思う。
- ・市民活動団体が行政と何かをするときの相談窓口が最初に書いてあるとよい。
- ・ルールブックを作る前に、どうやって活用するかを決めたほうがいい。

#### ○委員長

- ・具体的にどうしていくかを皆で共有するため、次回以降可視化できるようにしたい。

#### ○委員

- ・参考資料1の(4)の「ルールブックの活用先及び対象者」にある、「5年程度の市民活動登録団体」と「新規に協働を進めようとしている団体や他団体とマッチングをしていきたい団体」は矛盾する。ここを明確にしないと検討を進められない。

#### ○事務局

- ・事務局としても迷っている。方向性を決めていただきたい。

#### ○委員

- ・年数よりも、どこまで知っているか、知らないかということが大事。
- ・ルールブックは簡単にし、実施したい方に詳しく説明してあげるとよい。

#### ○事務局

- ・対象について、年数は設定せず、市民活動に興味を持ち、市民協働をしていこうという人を対象に変更する。
- ・ガイドブックは、市民協働や市民活動のことを知るためのものであり。ルールブックは、市民協働をやりたいときに活用するもの。

## ○委員

- ・しっかりとしたルールがあると、認識がずれたときに元に戻る。
- ・市民協働は市民と行政のものだけでなく、団体と団体、企業と市民団体、市民団体と市民団体など、異なる団体が一緒に何かをすること。お互いのことをよく理解しないといけない。そのためのルールブックだと思う。

## ○事務局

- ・現在の中身は市との協働で作成している。確かに団体同士、企業と団体も協働ではあるが、それも含めると難しくなると考える。
- ・市との協働以外のことも含めたほうがよいのであれば、検討が必要。

## ○委員

- ・団体同士のマッチングは、市民活動センターに相談すればよい。行政との協働に特化したほうが分かりやすい。

## ○市民活動センター

- ・以前作ったガイドブックは、協働の概念が書かれていて、行政と団体に特化していた訳ではない。「協働とは何か」や「NPO法人とは何か」が非常に分かりやすく書かれているので、絶対に生かすべきである。
- ・社協や商工会、事業者など、いろいろな団体があり、いろいろな協働の形がある。あま市の課題を解決していくのが協働の推進だと思うので、あえて分ける必要はないと考える。
- ・現状の団体の様子を見ると、協働のやり方や窓口が分からない団体がある。
- ・団体だけで完結できているところもあるが、協働による効果の気づきのためにもルールブックやガイドブックがあると思う。
- ・ルールブックの前半で、協働をするに当たっての基本的な原則などの約束事をシンプルに記載してはどうか。後半で、協働の方法や協働の入り口として流れなどを記載すると分かりやすいと思う。
- ・以前に作ったガイドブックが知られていないということは、ガイドブックが活用されていないということ。活用されるまで訴え続けたほうがよいと思うので、活用方法も記載したほうがよい。
- ・概念とか細かいルールも必要だが、学問や研究ではないので、多くの人に伝わるようなものがよい。今、活動をされている方が協働しようと思ったときに、どういう情報があったらできるという観点で意見を出していただいたほうが分かりやすいと思う。
- ・事務局としては、細かいことまで記載しないといけないという観点で作っているのだから、そんなに細かくは必要ないというのであれば、分かりやすく書いてほしいと決めたほうがいいと思った。

## ○委員長

- ・簡潔にするというのは、この会の総意であると思う。それに対して行政に特化するのか、ほかの協働もあるというように上手く示すのかなど、見せ方についての意見を頂きたい。

## ○委員

- ・いざ、協働をやろうとしたときに何からやればいいのか分からない。チェックリストなどで段階的に手順を載せていただくと安心して前に進められるのではないか。
- ・実際に協働をやられている団体の例を入れてもよいのでは。
- ・ガイドブックを平成28年に作成して、令和元年に改訂している。ガイドブックもルールブックも作って終わりではいけない。改訂のプランはどう考えているか。

#### ○事務局

- ・ルールブックを作成して、マッチング方法がよくなければ改訂は必要だと考えるが、今の段階で具体的な年数は答えられない。

#### ○市民活動センター

- ・協働の現状を見てルールに合わなければ、どんどん変えていくべきである。思ったより協働が進んでいけば、もう少し高度な内容にいていくとよい。運用はどんどん改訂して、使いやすいものに変えていく必要がある。今後もまちづくり委員会の中で委員から客観的な意見を頂き、検討していければよいと思う。

#### ○委員長

- ・使う側からのリアルな意見が出たと思うので、それに基づいて再度提案をお願いします。

#### ○事務局

- ・ガイドブックとルールブックを上手に使っていただけると考えている。頂いた意見を参考に修正し、次回の委員会で提案する。

#### ○委員長

- ・次回以降も使う側からの忌憚のない意見を頂きたい。